

5月18日 総計審議事録 専門部会Bグループ

①徹底した情報共有と町民参加促進

委員

デジタルとアナログを適切に組み合わせたとは？

横山係長

広報誌を例にすると全世帯に冊子を配付している。ホームページでもでも読むことは可能でパソコンスマホで見ることができる。郵送はいらないという人もいる。

アナログ・デジタルだけというわけではなく、組み合わせていきたい。

情報発信全てに組み合わせていきたい。

委員

広報誌などを高齢者に簡単に、スマホでみてもらうということで使い方教室は考えているか

横山係長

町内会でおこなっているのも町として、現段階で取り組む予定は無いが、ラインなどについてあれば考えていきたい。

委員

双方向とはどのようなことをするのか？

横山係長

申出ていただいことをやっていく。

委員

町長へのFAXも継続するのか

横山係長

ホットボイスも双方向の一つである。うまくいかない部分があれば、変えていく必要がある。

飯島委員

今のすまいるは文字だけだと切り取られてうまくいかない部分がある。進めてもらいたい。

委員

関心のない人や見なかった、知らなかったという声に対してどうアプローチするのか？

そもそも情報を伝える機会を定期的にやる必要があるのでは？

触れられる機会を増やすことが必要では？町民への意識付けが必要ではないか？

横山係長

転入者に対しては公式ラインやSNSのお知らせをしている。情報取得の方法をお知らせするかが必要だと考えている。

②有効な土地利用の推進

委員

昨今の原油高の状況など経済がうまくいっていない状況で、東工業団地の拡大は大丈夫でしょうか？

大石係長

現状、東工業団地は賃貸を含め売るところがなく、飽和状態です。

それでもアクセスの良さから引き合いがあることから工業系土地利用の拡大を目指すものです。

③快適な住環境の整備

委員

新嵐山と芽室公園の動線をどうやって結び付けるのか？具体的な行動はどのようにするか教えてほしい。

中村参事

嵐山と市街地の距離があって、なかなかルート化できておらず、従前から課題でもある。新嵐山と公園だけではなく、駅前を中心としてルートを作って、町民の方だけではなく町外から来た方にもどうやって周遊してもらうかが課題となっている。

示せる案はまだないのですが、ビジターセンターの委託に周遊ルートについて提案いただく予定。駅前の商店会との意見交換をしてもらうよう委託の中でもお願いしております。今年度中には形になるように進めています。

委員

ビジターセンターの計画を作って実現か？

中村参事

委託先の観光物産協会から町に提案をいただいて肉付けして実行する。駅前商店会にどのように誘客するかについては商工労政課とともに行う。

委員

施策の主な内容で公共サインの整備・公衆浴場の削除理由について

安田係長

前回の計画では公共サインの計画を新たに作って整備をしていくタイミングであった。計画に基づく更新が完了し、今後は維持管理のみとなったため削除しました。

齋藤課長

後期計画策定時は公衆浴場について町内の温浴施設がなくなった。

町が公衆浴場を安定確保しなくてはならないということで後期計画に記載。現在は温水プールに新たな温浴施設ができて、町として確保できたので達成したという考えで削除した。

③環境保全と再生可能エネルギーの推進

委員

主な施策からマイクログリッドが消えた理由は。

齋藤課長

導入のポテンシャルはあるが、費用対効果が悪く一旦推進をやめようということ、まちの優先度からは低く、積極導入をやめたことから削除した。

委員

マイクログリッドは地域で停電がおきたときに最低限の電気をつかえる。非常に便利であることもわかったので、個人的に可能性は残して欲しい。

委員

Jクレジットとはなにか

齋藤課長

町で町有林を持っており、木は二酸化炭素を吸収し酸素を吐き出す。

その吸収量を他の事業者に販売することができる。二酸化炭素を吐き出す事業者は二酸化炭素を削減しなくてはならないというのが国の流れで、頑張り切れない部分の吸収量を買う。その二酸化炭素の吸収量を売ったり買ったりする取り組みをJクレジット創出事業となります。

委員

施策に係る取組で、「自然環境・生活環境の保全」は農林課ではないのか？

齋藤課長

小さくくりで環境土木課と頭出している。クリーン環境基本条例なども含めて束ねる課が環境土木課と言ことで整理している。

④廃棄物の抑制と適正な整理

委員

主な施策の災害廃棄物の削除について。

齋藤課長

28年災害の後、災害廃棄物の処理に苦慮したという経緯があり、国の計画に基づき、計画を策定した。今後の発展は考えていないが、今後も続けていく。新たな取組は考えていないことから削除した。

委員

くりりんセンターの移転でゴミ袋が変わると聞いた。細かな周知や影響はどのように考えるか。

齋藤課長

芽室町の色付き資源ゴミ袋は、令和10年に新しいセンターが供用開始となるため、町のごみの分別について令和8年度中に検討、結論をだすこととしている。令和9年に対応について周知して、令和10年を迎える。

ゴミ収集業者とゴミ袋を作っている業者に影響があると思っている。令和8年度中に検討の際にも事業者とは意見交換をしながら、情報を提供していく。

委員

3Rとは何か

齋藤課長

リユース リデュース リサイクルである。実際にあるものを有効に使うという考え方が3Rというものである。

委員

文書にあるごみの減量化、資源化、適正処理というのは3Rということか？

齋藤課長

3Rというのは資源循環型社会というのが文言ありますが、国の考え方として資源循環型社会で積極的に取り組んでいくのが、この3Rというもので町としても国の考えに追随していく必要があると思っているので、記載しております。

委員

農業用廃プラの記載で、今まではどうだったのか、それなりに処理されていたのでは？

齋藤課長

今までは農家の廃プラについて農協が回収し処分している。量と処理金額が大きく増えてきている。農協も困っている。

生分解など新たなものを取り組んでいって、削減に繋がっていないかと考えて、町も農協とタイアップしながら取り組んでいきたい。費用部分について原材料費が高騰しており、ここには記載は無いが、費用負担はどうするのかというところは町としても考えたい。

委員

生分解などを使うことで費用が減るのか

齋藤課長

現在処理費も高騰しているので効果も出ているのではないかと考えている。

委員

排出規制は考えているのか

齋藤課長

これから考えていかななくてはならない部分である。協議会の中で検討していきたいという記載である。

委員

農家として廃プラについては一定費用負担をしている。使うハードルを上げるということは無かった。規制ではなく、使わないことがいい未来というポジティブな方向性で打ち出して欲しい。使わないアプローチというかサポートをしてもらいたい。

④道路交通環境の整備

委員

デジタルを活用した需要と供給とは？

大石係長

デマンド交通というのがありまして、携帯などを活用して乗合タクシーを運行するもので、例えば駅を出発してある地点まで行くという時に、何人かの人を途中でのせる形ですが、A I でルートを設定してその道を走るというものであります。それがデジタルを活用した需要と供給のマッチングというものです。

委員

それを今すぐやることはできないのか？

大石係長

芽室町で行うにはじゃがバスとの関係性とA I デマンド交通を並行することは難しい。また、デジタルを使えないと乗ることができないということになるで、その部分を検討していかななくてはならない。

委員

電話でも回答できるA I はあるのでは？

大石係長

私の知っている情報でそこまでやっているデマンド交通は無いので、そこがクリアされると進んでいくのではないかと思います。

委員

これから8年間で実現できるのか？

大石係長

展望計画で記載しているが、車両の小型化にすることが、デマンドに向くという事例もありますので、検討していきたい。

委員

道路の下の下水道管の老朽化が心配。

大石係長

基本的には、毎年管路を計画的に更新。随時カメラなどを入れて管路確認している。

委員

橋の長寿命化について、ひび割れしづらい、新しいコンクリートがあるときいているか使っているのか？

平本係長

橋りょう長寿命化については今ある橋りょうをなるべく長持ちするように維持管理を行っている。今ある資材を活用し修繕を行っているが、それができないような場合は費用対効果を考えて、進める。価格などがさがった場合には使用の検討をしたい。

委員

農業機械の大型化で、インフラのサイズが合わなくなっている。取り回しがきかなくなっている。古い橋りょうを通る時は心配になっている。畑に入るアプローチは道路ではないかもしれないが、ここの分野に入ってくるのか？

平本係長

町道の橋りょうになるものもある。土地改良施設になるので計画はない。

委員

農業機械で走行するときにバウンドなどの危険を考慮して欲しい。

平本係長

了解しました。